

# 6-2 戦いの道

「戦いの道」としても利用されていたみのぶ道には数多くの城・烽火台が存在する。武田時代の烽火台群、天正壬午の乱に際して造られた菅沼城、戦国期穴山氏の本拠であった下山、甲斐国境地帯の富士・万沢・十島の砦群など戦国期の緊張を伝える遺構が今も残っている。

## 4 久成の城山

地元で城山と呼ばれている。寺沢川に近い断崖絶壁にあり、大塩、切石に出る街道沿いにある。



## 5 西嶋烽火台

西嶋地区の足平山の北辺、標高520mの幅広の尾根の上に播鉢を伏せた形の小丘がある。これは武田家軍法の飛脚篝火に使われた遺構と考えられる。北方には甲府盆地の西南域、東には市川三郷町寺所や鴨狩津向の烽火台、南方には烏森山の烽火台などを見渡すことができる。現在はゴルフ場の一角となっている。

## 6 烏森山烽火台跡

東側には河内路が通り、西側には河内路古道が通る早川北岸の烽火台。



## 7 鴨狩の城山

富士川東岸の烽火台。本栖方面からの烽火と富士川東岸の烽火がここで合流する。麓の高前寺の梵鐘は県指定文化財。



## 8 宮木の烽火台跡

富士川と早川の合流部にある屏風岩の直上にある烽火台。



## 10 下山城跡(本国寺)

鎌倉時代には甲斐源氏の下山光基の館であったが、戦国時代になると武田氏の一族穴山氏が居館を構えた。『下山村絵図』によると二重の土塁で囲まれていたことがわかる。堀や土塁の一部は下山立正保育園東側の竹林中に残る。町指定文化財。

道の駅みのぶ  
↓ (焔硝蔵跡) 2.0 km  
下山城跡(本国寺)  
↓ 1.0 km  
一宮賀茂神社  
↓ 0.7 km  
二宮下加茂神社  
↓ 1.2 km  
道の駅みのぶ



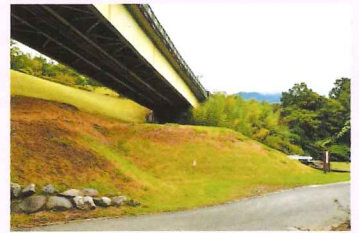
## 12 龍雲寺

穴山信綱によって創建された曹洞宗寺院。穴山信綱の鎧(町指定文化財)や関連文書が伝わる。本堂裏手には穴山信綱の五輪塔が祀られている。



## 9 波木井城址

身延山の東に突き出した台地の一角に本丸があったとされる。この南西部には土門と呼ばれる城の入口がわずかに残る。戦国時代、今川勢に大島の地で大敗した武田信虎は(大島古戦場跡)、この時福島勢に通じていた波木井義実を、大永7年(1527)に「波木井の峯の城」で滅ぼすが、この峯の城はこの場所であると伝わる。町指定文化財。



## 11 焔硝蔵跡

穴山氏居館の付属施設で、鉄砲に使う火薬の保管庫の跡。『甲斐国志』はこの施設について「四方石壁の台基を存す」と伝える。発掘調査では建物基礎と推定される石列等が確認され、丘となっている固い岩盤を削り出した壁建ち土蔵のような構造だったと考えられている。武田氏や穴山氏も鉄砲の採用を進めていたことが知られるが、そうした状況を裏付ける遺跡である。遺構は現在の富士川クラフトパークに入る橋の真下に残されているが、この橋はその名も「焔硝倉橋」。



## 13 一宮賀茂神社

穴山氏の庇護のもと河内領十七社の一之宮とされた。本殿は下山大工の作。穴山氏縁の社宝を有す。町指定文化財。

龍雲寺



12